

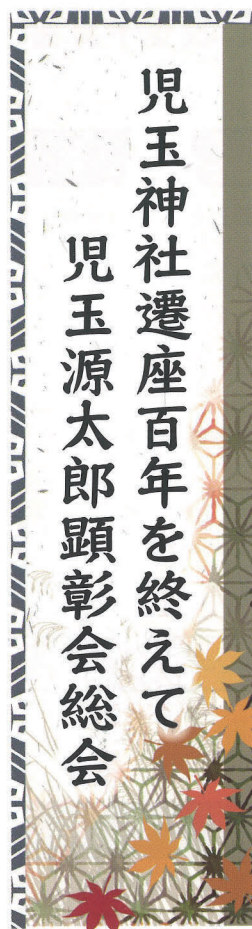


挨拶する山下武右会長

3年前に顕在化した新型コロナウイルス感染症は、5月8日よりややく感染症法という2類から5類に引き下げられて社会全体に平常の活動が戻ってきました。児玉源太郎顕彰会は令和5年度総会を6月3日に周南市文化会館3階展示室で開催しました。

総会には50人が出席、山下武右会長が「顕彰会は設立して8年目に入り、皆様のご支援、ご協力のおかげで順調に活動を展開しています。昨年、社殿改修をはじめ、節目の年で、社殿改修をはじめ、児玉神社遷座百年記念事業を目標通り達成しました。遷座百年奉賛会を支えた顕彰会の存在は大きいものがあります。これから百年先に向けて大きなステップを踏むことができました」と挨拶しました。

議案は役員の選任、令和4年度事業報告と収支決算、令和5年度事業計画と収支予算の3議案で原案通り承認されました。役員は、理事の佐伯哲治さん（新南陽商工会議所・前会頭）が退任、新任として黒神直大さん（遠石八幡宮宮司・児玉神社宮司）を選任、幹事の木本安一さん（周南青年会議所前理事長）が退任、後任に椎木謙太さん（同会議所理事長）を選任



編集・発行

児玉源太郎顕彰会

〒745-0874

山口県周南市公園区5854-41

周南文化協会 内

TEL. 0834-22-8190

印刷 (有) 精文社

山口県周南市若宮町1-55

TEL. 0834-21-1611



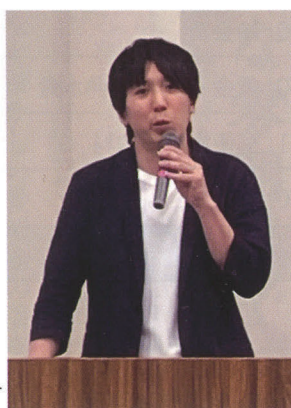
令和5年度総会

しました。

事業報告は、会報『藤園』7号とニュースレター『本丁通信』11号、12号の発行、7月24日の「藤園忌」には児玉神社（黒神直大宮司）で命日祭、菩提寺の興元寺（金子清学住職）で供養、「藤園忌」にちなんだ俳句募集など。茶会は3年ぶりに開催しました。会員は寄付金16人、賛助会員60件・人、個人会員308人。総数で384件・人。前年より微増でした。

事業計画では、会報『藤園』8号とニュースレター『本丁通信』13号、14号の発行、7月16日に藤園忌の茶会、24日に命日祭と墓前供養、6月から7月にかけて俳句募集。児玉源太郎ゆかりの地を訪

ねる第2回台湾の旅はコロナ禍のために3年前から中断しています。奥州市の後藤新平顕彰会、札幌市の新渡戸稲造と札幌夜学校を考える会、乃木希典を顕彰する東京の乃木中央会との交流も進めます。児玉源太郎顕彰会の拠点作りも検討に入ります。



記念講演会 藤田俊先生

総会のあと、北九州市立大学基盤教育センター准教授の藤田俊さんの記念講演「大正・昭和戦前期における日露戦争の記憶―桜井忠温の存在と活動を中心に―」を開催しました。陸軍省新聞班長を務めた軍人作家桜井忠温の生涯、陸軍における役割、大衆娯楽を介した陸軍宣伝、陸軍記念日とメディアイベント化、軍事の大衆化など新たな視点での貴重なお話でした。桜井は近代戦記文学の先駆けとなった『肉弾』を執筆しています。

令和4年度収支決算と令和5年度収支予算は次頁に掲載していますのでご覧ください。

令和5年度 収支予算書

【収入の部】

(単位:円)

科 目	予算額	前年度 決算額	備 考
繰 越 金	1,434,775	2,285,292	令和4年度より
会 費	2,500,000	2,620,500	個人会費 賛助会費 役員会費
寄 付 金	500,000	731,000	寄付金
雑 収 入	200,000	730,457	会報『藤園』販売 『藤園忌』茶会チケット DVD販売 利息等
合 計	4,634,775	6,367,249	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	予算額	前年度 決算額	備 考
会 議 費	50,000	9,580	会場費等
通 信 費	300,000	248,319	切手・葉書 郵送代
消 耗 品 費	200,000	222,838	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,200,000	1,181,950	『藤園』『本丁通信』、封筒
備品購入費	30,000	15,400	
書籍購入費	50,000	14,156	
渉 外 費	100,000	72,399	慶弔費
宣伝広告費	10,000	7,700	ホームページ
事 業 費	700,000	2,192,411	総会&講演会 『藤園忌』茶会&俳句 命日祭、墓前供養
負 担 金	30,000	25,000	諸会費
事 務 局 費	1,500,000	901,350	賃金・賃料・光熱水費
手 数 料	50,000	41,371	郵便振替手数料
予 備 費	414,775	0	
合 計	4,634,775	4,932,474	

令和4年度 収支決算書

【収入の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	備 考
繰 越 金	2,285,292	2,285,292	令和3年度より
会 費	2,500,000	2,620,500	個人会費 615,500 賛助会費 645,000 役員会費 1,360,000
寄 付 金	500,000	731,000	寄付金 731,000
雑 収 入	200,000	730,457	会報『藤園』・茶券 105,463 DVD販売 75,000 奉賛会立替金 549,978 利息等 16
合 計	5,485,292	6,367,249	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	備 考
会 議 費	50,000	9,580	会場費等
通 信 費	300,000	248,319	切手・葉書 郵送代
消 耗 品 費	100,000	222,838	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,000,000	1,181,950	『藤園』『本丁通信』、封筒
備品購入費	50,000	15,400	
書籍購入費	50,000	14,156	
渉 外 費	100,000	72,399	慶弔費
宣伝広告費	10,000	7,700	ホームページ
事 業 費	1,700,000	2,192,411	『藤園忌』命日祭・供養 75,000 『藤園忌』茶会 197,921 『藤園忌』俳句 300,792 遷座百年奉賛会 1,549,978 総会&講演会等 68,720
負 担 金	30,000	25,000	諸会費
事 務 局 費	1,000,000	901,350	賃金・賃料・光熱水費
手 数 料	50,000	41,371	郵便振替手数料
予 備 費	1,045,292	0	
合 計	5,485,292	4,932,474	

(収入) 6,367,249 - (支出) 4,932,474 = (残高) 1,434,775





児玉家墓所での墓前供養

児玉源太郎顕彰会は「藤園忌」の7月24日、児玉神社（黒神直大宮司）で命日祭、菩提寺の興元寺（金子清学住職）で墓前供養を営みました。

児玉源太郎を祭神とする児玉神社は昨年10月23日に遷座百年奉祝祭を済ませ、社殿も境内も一新されました。黒神宮司の祝詞が奏上され、卜部博文副会長らが玉串を捧げて遺徳を偲びました。参加者20人の中には児玉源太郎の三男友雄（陸軍中将）の孫にあたる児玉

第7回「藤園忌」 児玉神社で命日祭 興元寺で墓前供養



児玉神社社殿前で記念撮影

武雄さんの姿もありました。徳山には20年ぶりの再訪で「藤園忌」行事に初めて出席されました。

神事のあと、黒神宮司は「皆さまのおかげで遷座百年記念行事も滞りなく終えて本日奉賛会の解散総会を迎えることができました。ありがとうございます」と挨拶されました。東京から来られた児玉武雄さんからも感慨深い思いを

込めての謝辞がありました。

興元寺の墓前供養は児玉武雄さんら有志10人が参列、美しく掃き清められた児玉家墓所と児玉源太郎遺髪塔に花を手向けて焼香しました。

今回は茶道連盟の表千家20人と邦楽連盟の6人がお世話してくださいました。気軽にお茶に親しんでもらおうとテーブルとイスの立礼式で、150人が参加。床の間の軸は俳人中村汀女の一句「集い来しこの真清水とこそ思ふ」。花は白の芙蓉と桔梗が涼やかさを演出します。主菓子と一服のお茶を

箏や尺八の演奏を聴きながらお茶をいただく茶会は、児玉源太郎顕彰会の事務局を置く周南文化協会の協力で実現しました。茶道連盟（村田園会長）と邦楽連盟（澄田悦子会長）に積極的に関わっていただいて毎回好評です。

コロナ禍で2年中止された「藤園忌」茶会は昨年7月23日、3年ぶりに再開、今年も7月16日に周南市文化会館3階展示室で開催しました。



した。興元寺は徳山藩士の菩提寺です。高台にある墓所からは市街地や徳山湾を望むことができました。源太郎が活躍した明治の治世に思いを馳せました。



邦楽を聴きながらお茶を楽しむ藤園忌茶会

味わって児玉源太郎に思いを馳せる豊かなひとときを過ごしました。

日本古謡「さくら」や「荒城の月」など懐かしい愛唱歌の演奏が会場の雰囲気盛り上げました。顕彰会の山下武右会長は「夏の恒例行事として定着してきました。皆さまに感謝します」と挨拶しました。

第7回「藤園忌俳句」 入賞作品決まる

児玉源太郎顕彰会は、7月24日の「藤園忌」にちなんだ俳句を6月から7月にかけて募集しました。

俳句は雑詠。「児玉源太郎に関すること」と夏の季節を詠んだ当季雑詠。1人3句まで。91人から241句が寄せられました。無記名清記のうえ、選者の坪内稔典さん(俳人・市立伊丹ミュージアム名誉館長)、久行保徳さん(俳誌「草炎」主宰)らが選考して特選3点、入選10点、佳作17点の計30点を決定しました。

「藤園」は児玉源太郎が書などに晩年使っていた雅号です。顕彰会を設立した翌年の平成29年から俳句や茶会などの「藤園忌」行事を始めました。源太郎は器量の大きな政治家、軍人として日本の近代化を推進した実力者で、ふるさとには私財を投じて明治36年私設図書館「児玉文庫」を作りました。文庫は戦災で焼失する昭和20年まで42年間にわたり、教育の向上に

大きな役割を果たしました。現在の周南市立中央図書館の前身にあたり、平成31年3月の中央図書館リニューアルオープンの際、「児玉文庫メモリアル」の愛称が付けられました。

徳山港開港の大正11年遷座祭が行われた児玉神社、台湾から移植された記念樹「タイワンゴヨウ」の松、菩提寺の興元寺、生家跡の産湯の井戸、平成27年に整備された生誕の地など、市内には児玉源太郎をしのぶ史跡があります。入賞作品は次の通りです。

特選

自らを助けよ諸君藤園忌
東京都 小澤 俊彦

入選

白南風やシルクハットの源太郎
周南市 谷村 道子
十人を育てし母や藤園忌
京都市 中川みどり

源太郎は五尺三寸花蘇鉄
山口市 吉次 薫
夏の雲源太郎から便り来る
高槻市 松代 享子

蟬の孵化始まる児玉神社かな
下松市 藤井八重子
雲の峰児玉文庫の扉開く
光市 西崎 京子

風青し孫の名前は源太郎
周南市 山根 志づ
少年のまなざし涼し藤園忌
下松市 藤井 邦子

青嵐まなこ澄みたる児玉像
周南市 木村しづを
夏休み集合場所は児玉神社
周南市 吉原志津子

ふるさとは母の笑顔と胡瓜揉み
周南市 石田レイ子
匂いたつジャカランダの葉児玉の忌
周南市 岡田 郁子

爺々の才暇いとわぬ藤園忌
下松市 河村 正浩
帽子脱ぎ炎天に立つ児玉像
光市 高山 興平

佳作

孫が言う児玉源太郎知つちよるよ
周南市 松村 千昭

七月の海山青し藤園忌
周南市 赤坂 満子

台湾松仰ぎ神社へ縁立つ
周南市 山根 瀧子

産土の大將眠る蟬の森
周南市 津森 敏伸

直向きに世を駆けぬけて若葉雨
防府市 尾辻のぶほ

真直ぐな風と来ている藤園忌
下関市 保田 尚子

母さんと覗く文庫や児玉の忌
周南市 田中志津枝

一陣の清風涼し藤園忌
岩国市 新保 春風

子と覗くルーペと図鑑夏休み
周南市 高村 瑠美

虹立つて児玉神社のお弁当
香芝市 里井貴美子

海霧の彼方へ篤き視線や児玉像
周南市 河村加南子

夏の蝶五葉の松を横切れり
周南市 福田 佳子

長州の訛り飛び交う藤園忌
周南市 永瀬 昌宏

元帥の産湯の井戸や蟬しぐれ
周南市 南谷 昌孝

蟬時雨小石踏みしめ遺髪塔
周南市 山本礼以子



第7回 「藤園忌俳句」 表彰式と記念講演



俳句表彰式

児玉源太郎顕彰会（山下武右衛門）は第7回「藤園忌俳句」の表彰式と記念講演を9月17日（日）午後2時から周南市文化会館3階展示室で開催しました。選者の久行保徳さん（「草炎」主宰）をはじめ、受賞者22人と顕彰会会員ら計40人が出席しました。

表彰式では、山下会長が顕彰会



特選で表彰される谷村道子さん

設立の経緯に触れて「藤園忌俳句」が定着してきて7回目を迎えました。今回も県内外からたくさんの方の応募があり、有り難く思います。今後も文化的な活動を通じて児玉源太郎の功績を広く伝えていきたい」と挨拶しました。出席された受賞者ひとり一人の句を披露しながら特選の谷村道子さんに賞状と賞金、入選の藤井八重子さんから8

人に賞状と記念品、佳作の河村正浩さんから13人に賞状と記念品をお渡ししました。欠席者には後日郵送しました。

特選3句は周南市岐山通3丁目の「児玉源太郎生誕の地」告知板に2年間掲示されます。

蕪村俳句の 魅力と作句の心得 入賞作品に触れながら

表彰式に続いて午後2時半から久行保徳さんの講演に移りました。県現代俳句協会会長、周南文化協会副会長の久行さんは、児玉源太郎顕彰会設立以来の理事として「藤園忌俳句」の立ち上げにご尽力、初回から選者としてご指導いただいています。



講演される久行保徳先生

演題は「与謝蕪村の俳句」。江戸の天明期俳壇の中心的俳人の蕪村。1716年生まれ。伊藤若冲と同年。農家の出ながら江戸に

赴き、狩野派の絵師について学びました。同時に俳諧にも興味を持ち、画業と俳諧の基礎を身に付けました。45歳で結婚、天明3年68歳で「しら梅に明るる夜ばかりとなりけり」の辞世の句を残して没しました。蕪村俳諧の特色は絵画と詩を一体化させた芸術性を積極的に取り入れたことで、「侘び」「寂び」の美意識によって文芸の域に高めた松尾芭蕉の俳諧に、画人としての資質を活かした抒情性、浪漫性を加えたこと。ゆえに蕪村の句には艶があると言われる。

蕪村の句も13ほど紹介。代表的な「菜の花や月は東に日は西に」寂寥感のある「月天心貧しき町を通りけり」、芭蕉に触れた晩年の「芭蕉去てその、ちいまだ年くれず」などを鑑賞。

この後、今回の「藤園忌俳句」入賞作品を一句ずつ講評、源太郎や児玉神社、産湯の井戸、児玉文庫などを取り上げた句が多いですが、事実をそのまま詠んだのでは作品になりません。選者のお一人、坪内稔典先生もおっしゃっていました。嘘つきは俳人の始まりだと。事実の報告は詩になりません。どうぞ想像の羽を広げてください。最後に過去6回の特選句を披露して講演を締められました。

乃木神社鎮座百年奉祝記念大祭 旧乃木邸も一般公開

児玉源太郎顕彰会 事務局長 西崎博史

東京・赤坂の乃木神社（高山陽充宮司）では鎮座百周年の式年を迎えて9月13日、奉祝記念大祭が行われました。この日は隣の旧乃木邸も一般公開されて見学者で賑わいました。



乃木神社遷座百年奉祝記念大祭

明治天皇は明治45年（1912）7月30日崩御、元号が大正に変わって大喪の儀の9月13日、乃木希典・静子夫妻が殉死を遂げられました。大正9年に明治神宮が創建され、その3年後の12年に乃木神社が造営、11月1日に鎮座祭が斎行されました。

うつし世を神去りましし大君のみあとしたひて我はゆくなり

乃木希典辞世の歌。殉死の後、東京市の阪谷芳郎市長が先頭に立つて同志を集め、中央乃木会を組織、乃木邸内の小社に乃木夫妻の御霊を祀りました。「みあとしたひて我はゆくなり」との遺詠の趣旨に鑑みて明治神宮の完成を待つて乃木神社は造営されました。乃木神社に隣接する旧乃木邸は美しく掃き清められていました。邸内を初めて拝見しましたが、質



旧乃木邸の玄関



庭から見た旧乃木邸

素な暮らしぶりに乃木夫妻の生き方を知るとともに、西南戦争から日露戦争まで長州出身の軍人として児玉源太郎とともに戦い抜いた乃木希典の胸中を思いました。

明治神宮ミュージアム 「明治天皇と乃木大将」展

乃木神社鎮座百年奉祝記念として「明治天皇と乃木大将」大御心をいただきて〜」が7月15日から9月24日まで東京・代々木神園町の明治神宮ミュージアムで開催されました。

このミュージアムは、明治天皇と昭憲皇太后両御祭神ご愛用の御物を納めた「宝物殿」（現在、重要文化財として境内に保存）の収

蔵品をより良好な状態で守り伝えるために令和2年の明治神宮鎮座百年祭を控えて前年10月開館しました。

明治神宮の祭事や装束、建物の縮尺模型などが見られる「杜の展示室」、儉約の御心が偲ばれるご愛用の鉛筆から金色の鳳凰を頂く儀装車までゆかりの御物を集めた「常設展示室」、特別展示の「企画展示室」で構成されています。特別展示では明治天皇御料「除隊兵像御置物」、御製「田原坂」、陸軍御軍服、皇后陛下御下賜重箱、乃木大将書「協力一致」「皇師百歳」などの展示品を通して激動の明治の時代に育まれたうろわしき君臣の間柄を偲びました。

よもの海みなはらからと思ふ世に
など波風のたちさわぐらむ

明治天皇御製。明治37年、日露戦争開戦に際し、戦争回避を願う思いを込めたとされます。



神宮の杜にある
明治神宮ミュージアム

窓

『児玉神社遷座百年の記録』

児玉神社遷座百年奉賛会（山下武右会長）は、7月24日「藤園忌」の日に所期の目的を達成して解散総会を終えました。解散するにあたり、『児玉神社遷座百年の記録』をまとめ、奉賛者に報告とお礼を兼ねて届けられました。

一冊の記録集は、薄い黒地を基調にした上品な装丁です。A4判、20頁。徳山市史から抜粋した大正



児玉神社遷座百年の記録

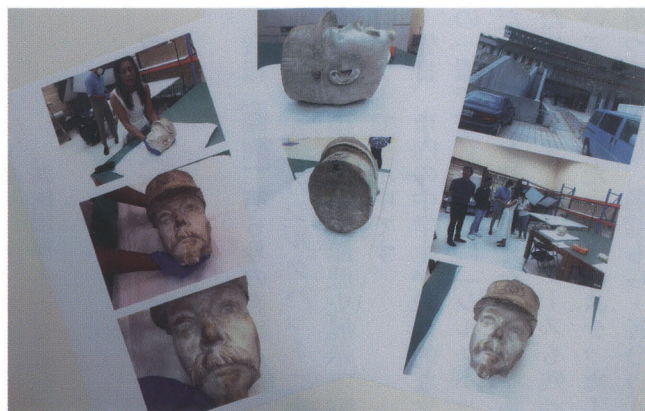
11年（1922）12月15日の児玉神社遷座式と徳山港開港祝賀会の記事を皮切りに、奉賛会の活動、記念事業、記念行事、とくに児玉神社の改修や遷座百年奉祝祭、記念式典・祝宴を詳しく紹介、最後に地元紙の日刊新周南での広報活動、奉賛者ご芳名を掲載しています。

このような記録は時が経てば経つほどに貴重なものとなります。児玉源太郎顕彰会でもご支援できた喜びとともに大切に保存し、後世に伝えていきます。

児玉寿像頭部の見学

後藤新平顕彰会関東地区連絡所代表の黒澤康雄さん（東京医療保健大学客員教授）から、台南市で児玉寿像頭部を拝見したと、その資料と写真が8月初めに児玉源太郎顕彰会に届きました。

黒澤さんが7月31日、台南市での台日文化友好交流基金会主催「台湾 軌道のきずなセミナー」で講演された折、台南市政府文化局と文物管理行政処の了承を得て保管庫に収蔵されていた石像頭部を見学されました。



黒澤康雄さん撮影の児玉寿像頭部写真

5月末発行の児玉源太郎顕彰会会報『藤園』第8号に金子展也さん（さいたま市在住）が執筆された記事「台湾に建立された児玉大將寿像」がきっかけでした。見学の際、文物管理行政処から頂いた説明資料と、自らが撮影した石像の写真と「金子先生のおかげで石像の拝見が叶いました。金子先生にお渡しください」と依頼が添えてあり、早速お届けしました。黒澤さんのお話では児玉寿像頭部は今年12月に完成予定の台南市立博物館に展示されるとのことです。黒澤さん、ありがとうございます。

新刊紹介

台湾漫遊鉄道のふたり

楊 双子 著



『台湾漫遊鉄道のふたり』

日本人作家の青山千鶴子と、千鶴子の通訳をし、生活のお世話をする台湾人の王千鶴。講演で台湾に招かれ、そのまま1年間滞在して台湾縦貫鉄道の旅へ。二人は様々な場面に遭遇しながら食べ物、文化、歴史などを語り合います。時代は1938年。日本が統治して40年。千鶴子は思慮深く教養のある千鶴に惹かれますが、千鶴はどことなく寄せ付けません。台湾の美しい風景の中に内地人と本島人の格差が影を落とします。

この小説は台湾で書かれて出版され、日本語に翻訳されました。三浦裕子訳。

2023年4月25日初版。
中央公論新社 2200円。

トピックス

『物語 児玉家の歴史』

源太郎と友雄を中心として

児玉源太郎の三男友雄（陸軍中将）の孫にあたる児玉武雄さんが今年5月10日、源太郎と友雄を中心とした『物語 児玉家の歴史』を巻1から巻7まで7冊にまとめました。

序文に「平成10年に池の上の家を取り壊した際、押入の奥から源太郎、友雄、加代子に関する大量の書簡、写真、日記などが見つかった。（中略）処分する前に、せめてデジタルデータの形で保存しておこうと整理し、関係する各種書籍、研究論文等も参考にして、児



『物語 児玉家の歴史』

玉家の通史として纏めたものである」と。源太郎と、日露戦争を転戦、昭和13年台湾軍司令官に就任した友雄の生涯を7冊237頁にわたり、詳述しています。写真や資料、年譜、系図まで掲載。7月24日の「藤園忌」命日祭で来訪の折、児玉源太郎顕彰会と周南市美術館に寄贈されました。

「藤園忌俳句」

受賞者から喜びの声

第7回「藤園忌俳句」の表彰式を終えた9月下旬、受賞者の皆様から喜びの声を伝える手紙や葉書が児玉源太郎顕彰会事務局に寄せられました。

特選の中川みどりさん（京都市）

は「郷土の記事に触れ、この日常が生き生きといたしました。長い人生、俳句をやつて来てよかったと思うこの頃でございます」、佳作の新保春風さん（岩国市）は「自分の作品が活字になるのはうれしいものです。ありがとうございました」、高山興平さん（光市）は「今回のような会に出るのは初めてでしたが、手を引いていただき、楽しい時間となりました。力をいただきました」と。事務局もまた励みになります。ありがとうございます。

編集室より

同志への想い

川上 浩史

児玉神社の境内にある徳山七士碑は、七士が靖国神社に合祀された明治21年に建立されたものです。杉孫七郎による碑の撰文に登場する、富海の入江石泉と児玉源太郎が相談して建てたとも言われます。石泉は、亡くなる直前の明治28年末に従六位に叙されていますが、その願書は、大野直輔と児玉と杉の連名により提出されています。徳山七士には明治31年に従四位が追贈されており、こうした顕彰活動は、同じ時代を生きた同志への強い想いに発しているのだらうな、と感じます。

（新南陽郷土史会事務局長）

児玉源太郎のシルクハット

松本久美子

会報『藤園』第6号の表紙を飾った「児玉源太郎のシルクハット」を現在、周南市美術館歴史展示室特設コーナーで展示中です。

先日、市内の中学生が総合的な学習の一環で鑑賞した際に「シルクハットだ。実物を初めて見た」と声をあげた生徒がいました。「ケースも残っていて、泊まったホテルのステッカーも貼ってあるし、名前もG・KODAM

Aと書かれているよ」と説明すると、他の生徒たちも熱心に見ていました。

展示のテーマは「海外に学んだ先人たち」。明治元年から6年間、英国留学した毛利元功と、明治24年10月から10ヶ月間、軍事教育の視察のため欧州を歴訪した児玉源太郎にまつわる資料を展示しています。二人が海外で何を見て何を感じたのか、想いをはせていただければと思います。YouTubeでもご覧いただけます。



QRコード

（周南市美術館館次長）

拠点作りへ向けて

西崎 博史

顕彰会が発足して7年間の活動を振り返ると感慨深いものがあります。児玉源太郎に寄せる役員や会員、多くの方々の支援によって活動を押し上げていただきました。感謝に堪えません。

『藤園』と『本丁通信』の定期発行、7月24日の命日祭をはさんでの俳句募集、茶会などの「藤園忌」行事、源太郎の生涯を描いたDVD「児玉源太郎 未来を築く」製作、昨年は児玉神社遷座百年記念事業支援と数々の事業をこなしてきました。3年後は10周年。顕彰会の拠点作りへ向けての準備に差し掛かる段階を迎えました。

（児玉源太郎顕彰会事務局長）